

特定非営利活動法人 京都海外協力協会

〒600-8127

京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地の1

ひと・まち交流館 京都 PO.BOX No.27



E-mail : [office@koca.or.jp](mailto:office@koca.or.jp)

URL : <http://www.koca.or.jp>

もくじ

オンライン月例会 7月16日開催	1	HAPPY 50th ANNIVERSARY プロジェクト メッセージ募集	8
オンライン月例会 8月6日開催	4	行事予定のお知らせ	10
ワールドマスターズゲームズ 2021 ボランティア募集	6		

Zoom 開催しました！ オンライン月例会

7月16日 ありったけの自分で挑戦した新しい世界

日時：令和3年7月16日（金） 20:00～21:30

参加者：延べ29名（KOCA 会員6名、OV7名、学生9名、パラグアイから2名、その他5名）

発表者：畑中 遥さん(2018-1/ パラグアイ/ 青少年活動)

今年度は、Zoom を使用して、月例会を開催しています。4月には、協力隊祭りの中で、3名の発表者による活動報告会として開催し、5月には、「協力隊 OBOG つながりづくり&経験を地元で活かすアイデア出し」の第1回目として、参加者が地元でやりたいことを考えて発表しました。

7月は、新しく JICA 京都デスクに赴任された、畑中遥さんの登場です。これから協力隊を目指す学生、若者にも参加してもらおうと、広報に力を入れた結果、大学生を含む多くの参加がありました。



畑中さんは、京都教育大学を卒業され、日本で7年間、小学校と中学校で教員として働いた後、青年海外協力隊に応募され、2018年度1次隊「青少年活動」で南米パラグアイに派遣され、現地のNGOに配属されました。

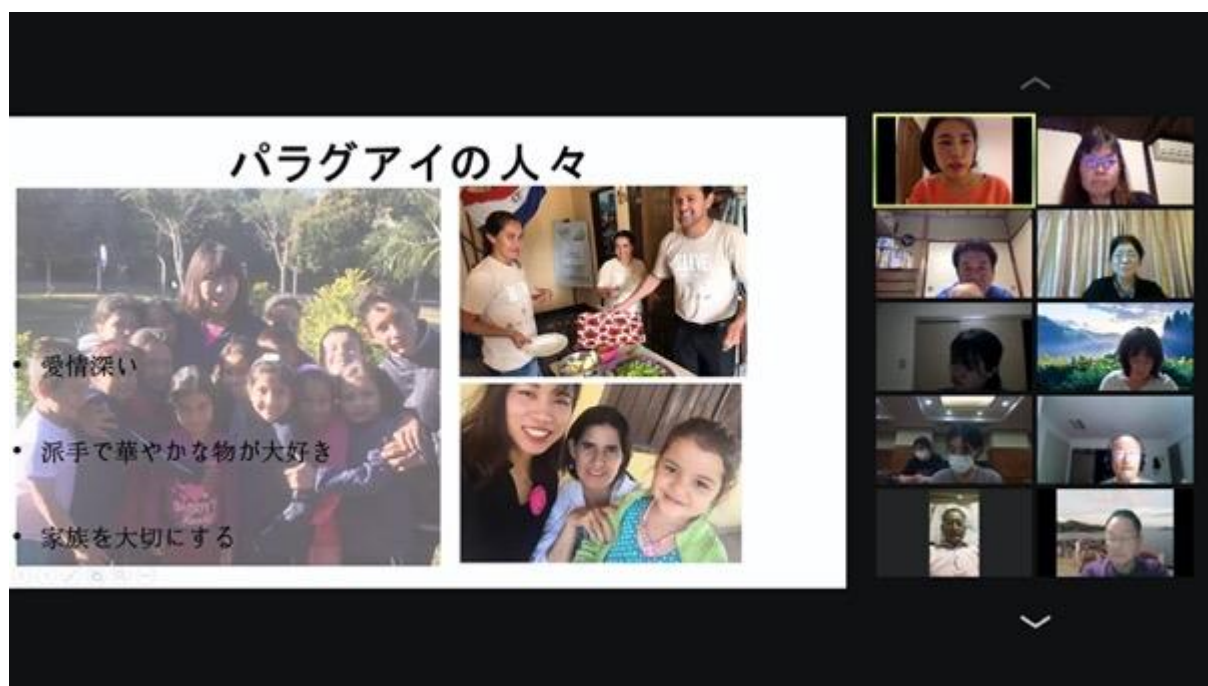
協力隊に興味を持つ学生の参加が多かったため、協力隊応募のための語学力のこと、試験のこと、派遣前研修のことも話をしていただき、派遣国パラグアイの紹介。

パラグアイの自慢として、まずは挙げられたのは、イグアスの滝。パラグアイ、ブラジル、アルゼンチンにまたがる世界遺産。2つ目、ニャンドゥティは、パラグアイの鮮やかな伝統工芸品。

そして3つ目が、テレレ。マテ茶の葉に冷たい水を注いだもので、夏の暑い日に、仲間で回し飲みされます。

派遣されたNGOは、人々の暮らしを良くするため、教育分野で活動されていました。小学校への算数指導、子どもから大人への英語指導、小学生へのダンス指導を行われました。学校でのダンス指導、まずは、ソーラン節を皆で踊りました。

また、パラグアイでは、野菜をあまり食べないこと、運動の習慣がないことから、地域に住む女性を対象として、ズンバを指導されました。



お話の途中で、Zoomのチャット機能を使って、参加者には質問を書き込んでもらい、お話の後で、司会者から質問をして、畑中さんに答えていただきました。

チャットの中では、参加者が質問すると、畑中さんが答えられる前に、何人からのOVから、回答がアップされるなど、Zoomならではの対応が見られました。

畑中さんは、パラグアイでのボランティア活動が本当に楽しかったそうで、帰国後、JICAの活動報告会に参加したときに、国内での協力隊のような仕事があることを知って、JICA国際協力推進員に応募され、京都の国際交流推進員とられたそうです。今の仕事は、色んな人に会えるし、想像していた以上に楽しいものだそうです。

京都駅前のメルパルク京都の地下1階、京都府国際センターにおられますので、畑中さんにお会いしたい方は、お寄り下さい。

パラグアイから参加されたのは、畑中さんがパラグアイで親しくされていた方々で、フェイスブックから参加申込があり、畑中さんが連絡を取って、Zoomに参加されることができました。日本語での発表は、わからなかったと思いますが、月例会が終わってから、畑中さんとパラグアイの女性がスペイン語で楽しく話されていました。

最後に、畑中さんへのメッセージを紙に書いて、集合写真を撮りました。



## 2021 オンライン月例会（8月6日）

### 「経験を地元で活かすアイデア出し！」（第2回）

6月に続いて、8月の例会も『「協力隊OVのつながりづくり」と「協力隊の経験を地元で活かすためのアイデア出し」』をテーマに話しました。

参加者は、京都6名（うちKOCA会員5名）と大阪・和歌山から1名ずつの計8名。

「色々な刺激を前回もらったので」「いいアイデアをゲットしたいです！」「それぞれのやりたいことを前に一歩進めていけたら」「仲間づくりに活かしたい」など、それぞれの期待とともに、今回は「協力隊の経験をどう活かしたらいいか分からなくて悩んでいます」との思いを持って参加した人がいました。

その流れで「お悩み相談会」コーナーを設けました。相談者は、大学院を修了してから協力隊に参加し、帰国。中学校で教員をして1年半が過ぎたところで「今の生活は協力隊の経験が活かせていないのでは？」と感じているそうです。そういう人生のもやもや期、ありますよね。「経験の活かした方を考えるのは、永遠の課題だわ」という声も出ました。「出前講座など、依頼されるものから手始めにしたよ」「体験談を語るうちに、自分のやりたい開発教育に出会ったよ」「協力隊に参加して、コミュニケーションもうまくなっているはずだし、1年や2年ですぐ経験が活かしているかどうかは分からないんじゃないかな」など、帰国して10年以上経つ参加者も、相談者と一緒に「協力隊経験」を振り返りました。

「仕事を続けるか、やめようかな」という悩みに対しては「続けながら、もっと楽しいことを見つけたらどう？」「思うようにやったらいいと思うよ。目の前にあることを精いっぱいすること、子どもたちと向き合うことも大事だよ。」と励ましメッセージが。みなさんなら、どのように相談に乗りますか？

5 協力隊OBOGに呼びかけて、手足を動かす活動をしたい

内容：協力隊経験者は、フットワークが軽く、体を動かすのが得意（そう）なので、山崎さんとかづさんは提案者となり、KOCAとして、何か手足を動かす活動をする。

対象者 = 誰と？	どう役立つ？
農家と	人手が足りない部分などに手伝う労力面
他	

地域にどう貢献できる？（＝どのような効果が期待できる？）

さて、今回話し合った企画提案は3つ。一つ目は「動画づくり連続講座」です。情報発信ツールの一つとして注目されている動画撮影や編集の仕方を学ぼうという提案でした。協力隊にこれからいく人たちにとっては、日本紹介や現地での活動紹介を伝える方法を身につけることができ、地元でボランティア活動をしている京都府民にとっては、活動周知ができるようになるでしょう、という提案でした。

二つ目は、「KOCA で身体を動かしながら集まれる場を作りたい」という提案でした。福知山での農園活動が面白かったことを振り返りつつも、福知山での農地はなく、「農地や、農地を管理する人がいない中、ゼロから始めるのは難しいね」という話に始まり、野菜を育てることは継続的な活動を伴い、責任者がいないと続かない。それならば、農業に携わる他団体と連携を探る方が現実的かも。また、畑作業のほか、身体を動かすものとして「ごみ拾い」や「来年のワールドマスターズゲームズのボランティア」にみんなで参加することでも、KOCA 会員の親睦がはかれ、主催団体の力になれるのではないかと意見を交わしました。

三つ目は「子ども脱被ばく裁判の勉強会をしたい」という具体的なテーマを持った提案でした。東日本大震災後、国や福島県の責任を問うべく、避難者を含む約200人の福島の親子が、子どもたちが安心して学べる環境を保证するために福島地方裁判所に提訴し、現在も裁判で争われているそうです。その概要を聞いた後、オンラインで、少人数かもしれないが関心のある人と学ぶなど、勉強会のイメージを全員で共有しました。

8人だと「〇〇さん、どう思う？」と参加者みんなに尋ねることができて話しやすいなあ、と感じました。一人ひとりの発言を聞くことで、色々な考えに触れることもできました。月例会を終えて「中心になる人がいないと、積極的にものごとは進まないのでは？」という感想も聞かれました。確かに、提案を実現するためには、自ら働きかけることが大切です。自分のやりたいことを誰かにやってもらうつもりでいたら、なかなか進まないでしょう。3回目も「やりたいこと」を伝えることで、提案する人の頭の整理になればいいなあと思います。継続提案同様、新規提案も歓迎です。KOCA 会員の皆さん、どうぞご参加ください。





## \* ボランティア募集 \* ワールドマスターズゲームズ 2021

### 関西でのグループボランティア

「スポーツで、地域貢献しませんか？」

来年5月13日から29日まで行われる「ワールドマスターズゲームズ2021 関西」。ざっくり言うと、30歳以上でプロ・アマ問わず、個人で参加できる国際的なスポーツの祭典です。前大会では106ヶ国、2万人以上の参加があったそうです。

「協力隊のつながりづくり」と、京都でできる「国際交流」「地域貢献」のため、KOCAとしてグループを作って大会ボランティアに応募しようと企画しました。

下記ご覧いただき、興味、関心を持った方はぜひご応募ください。  
家族やお友達を誘っての参加もできます。

募集要項はウェブサイトでご確認ください。

<https://www.wmg2021.jp/games/pdf/volunteerjobdescription02.pdf>

簡単に募集要項のポイントを絞ると

- 1 日(5 時間-8 時間)から複数日で活動できます。
- 活動に参加すると、ポロシャツやサコッシュ、タオル、昼食が提供されます。
- 交通費は自己負担、無償活動です。

そして、

■グループ・団体参加で欠席者がいる場合は、代理人登録が必要です(ポロシャツサイズの変更はできません)…と、申込用紙に書いてあります。申し込んだら、予定をしっかりと空けておきましょう。

申込用紙:募集要項サイトからダウンロードするようになっています。KOCA としてまとめて提出するので、各自での申込は不要です。

#### 【KOCA への申込方法】

参加ご希望の方は1)から9) について、10 月 31 日(日)までに記入し、[office@koca.or.jp](mailto:office@koca.or.jp)(担当亀村)まで送ってください。

- 1) 氏名(日本語表記)
- 2) 氏名(ローマ字)
- 3) 性別
- 4) 生年月日(西暦)
- 5) 日常会話レベル以上の外国語  
英語 中国語 韓国語 フランス語 スペイン語 ポルトガル語 ロシア語 その他  
( 語)
- 6) ポロシャツサイズ (詳細は応募要項で確認ください)  
 XS  S  M  L  XL  2XL

7) 活動可能日 (①から⑤の番号を記してください)

- ① 5 月 13 日(金) 開会式@京都市西京極総合運動公園
- ② 5 月 14 日(土) バドミントン@島津アリーナ
- ③ 5 月 15 日(日) バドミントン@島津アリーナ
- ④ 5 月 21 日(土) バドミントン@島津アリーナ  
または空手@京都市武道センター
- ⑤ 5 月 22 日(日) バドミントン@島津アリーナ  
または空手@京都市武道センター

\*活動日と活動場所については、選択肢が多かったため、勝手ながら以下の通り絞りました。1 日から最大 5 日まで選んでください。

\*応募状況によっては、5日間選択いただいた場合でも、それより少ない活動日になる可能性があります。申込を頂いた後、個別に連絡いたします。

\*例えば「いつでもいいけど合計3日以内」という希望も、グループを作りやすいので助かります。

\*グループ取りまとめ後、11月中旬に大会事務局へ申込みます。

8) 隊次、派遣国、職種（協力隊経験者のみ）

9) 携帯電話番号（5月以降、開催直前や開催期間中の連絡用）

京都で、一緒にボランティア活動できる機会を楽しみにしています。ご応募お待ちしております！（亀村）

## 『KOCA HAPPY 50th ANNIVERSARY プロジェクト』

### ～メッセージを送ってください～

「KOCA と縁のある 50 人のメッセージ集」作成のため、

1) KOCA と最初に出会った年

2) KOCA の良いところ

3) KOCA での楽しかった思い出

について、みなさまどうぞメッセージをお寄せください。

送り先：[office@koca.or.jp](mailto:office@koca.or.jp) (担当：亀村)

文字数：100-250 字

締切 12 月 10 日（金）

みなさんからお伝えいただいたメッセージを紹介します。

1) 1997 年 7 月、隊員出発壮行会をしていただいたのが最初です。当時はまだ NPO ではなく、京都 OB 会でした。KOCA では、新旧 OBOG も、OBOG じゃない方ともするすると繋がれるところが良いですね。美山のキャンプ（府立大学演習林学舎）で、子どもたちが本物のオオサンショウウオを見つけた時は感動しました！

2) 1980 年代から。KOCA になった 1991 年から役員をしています。

KOCA のみならず OB 会のいいところは、先輩後輩や上下関係にとらわれない、初対面でもすぐ打ち解けることができるのかなと思います。長くやっていて、京都、近畿、日本のあちこちに知り合いができました。



近畿のOB会にも協力してもらいながら、福知山のふれあい農園での収穫祭を20年以上続けられたのはとにかく楽しかったから。使命感だけでは続かないと思っています。

3) 1996年、ゆめっと京都で協力隊OB会と知り合い、気づけばKOCAの正会員になり、2011年から理事に。

だれでもウエルカムなところ、様々なスペシャリストがいるところが良い。

美山町でのエコキャンプ、福知山での収穫祭。わいわいがやがやとしたイベントが懐かしい。

4) 1992年、大阪からの転居に伴い、春の総会に初めて顔を出したのが出会いです。KOCAの良さは、気負いせずに参加できる、ゆる〜い繋がりでしょうか？

- ・数年に渡り毎月KOCANEWSを発行。200〜300通の郵送が大変だったこと。
- ・銀閣寺近くの飲食店を有志で賃貸して「JOC・VOB倶楽部」を開設していたこと。
- ・NPO法人化して京都駅前に事務所を構え、定期的な交流会を開催していたこと。

等々書き切れないほどの思い出があります。

5) 1998年、ゆめっと京都に関わるようになってからです。出会った当時は学生で協力隊に興味があるという状態でしたが、みなさん快く受け入れてくれ、イベントなど参加させてもらいました。OBだけの集まる会ではなく、誰でも受け入れ参加できるところがいいところです。

楽しかったのは、協力隊に行きたい人を対象とした合宿@永観堂&新年会や総会後の懇親会です。

6) 1994年、協力隊募集説明会に行くと、その場でOB会のイベントに誘われました。収穫祭の前、何も無い河原にトイレが設置され、電気が通ってキャンプ場のようになり、「協力隊は、技術者集団なんだなあ」と驚きました。色々なバックグラウンドや年代の方と分け隔てなく、おつきあいさせていただけるのがKOCAの良さ。KOCAサルサ部というのもかつてありましたね。ボリビアに引っ越したKOCAの岡野さんを訪ねたこともあります。

7) 2010年派遣時にKOCAに出会い、帰国後KOCA会員になりました。KOCAは、何かしようとした時に積極的に、すぐに行動に移ります。そして、すぐに仲良くなります。北部農園での活動や、府立大学でのキャンプが楽しかったです。

8) 2005年頃、Facebookで収穫祭の様子を見て知りました。妻の出身地である京都へ引っ越し、自分にとって京都は縁もゆかりもなかったのに、「面白かったらいいな」とKOCAに入りました。みなさんのバックボーンが様々で、自分の見方と違い、会員それぞれの知識や経験、技術を間近で見られるところが楽しいです。また、2021年3月『TOGETHER』発送作業で集まった時、予定されていないのに、コロッケを揚げたり、ミントティーの差し入れがあったりと、集まった時に、自ら楽しむ雰囲気は協力隊らしいと思います。

**行事予定のお知らせ** (Facebook/KOCA ネットなどで、詳細を後日伝えます)

●10月15日(金) 20:00-21:30 オンライン月例会

第3回「協力隊OVの繋がりづくり」と「協力隊の経験を地元で活かすためのアイデア出し  
テーマ: バリアフリーで誰もが参画する社会へ」参加者同士で対話します。

前半は参加者自己紹介、後半は提案者が出したテーマに沿って話します。

申込不要です。19:45 から Zoom を開けます。

Zoom URL: <https://us06web.zoom.us/j/83083555939>

ミーティング ID: 830 8355 5939 (パスワードはありません)

●11月オンライン月例会 (日程調整中です)

お隣、大阪府の青年海外協力隊大阪府 OBOG 会メンバーと、互いの活動を知り、より良い運営を目指して意見交換会をします。

日時が決まり次第、Facebook、KOCA ネットで、お知らせします。 \_

参加希望の方は、10月24日(日)までに [office@koca.or.jp](mailto:office@koca.or.jp) へ連絡ください。

●12月オンライン月例会では、KOCA 会員との忘年会を企画します。

途中入退場ありです。別途メールで日程調整のご案内を送ります。

**KOCA ネットへの登録をお願いします。** 各種行事の案内や、会員の関連する行事を紹介しています。

申し込みは E-mail : [office@koca.or.jp](mailto:office@koca.or.jp)

**KOCA の情報は、ホームページやフェイスブックで随時発信しています。**

ホームページ <http://www.koca.or.jp> Facebook KOCA (一文字ずつ空白を入れる) で検索